

## 災害に備え市内8地区に衛星携帯電話を貸与

市は、携帯電話がつながりにくく災害時に孤立する可能性がある市内8地区(黒川区、白口区、朝日区、藤和区、佐中区、神子畑区、中田路区、奥田路区)に衛星携帯電話を貸与しました。

本電話は、地球を回る衛星を利用することで停電時でも使用可能。車のライターから充電することもできます。

9月8日、市シルバー人材センターにおいて、朝日区金丸二郎区長に担当職員が使用方法などを説明。金丸区長は「平成16年の台風23号の時は道路が寸断さ

れ約1週間孤立しました。この衛星携帯電話があれば安心です」と話しました。



市職員から説明を受け、携帯電話を操作する金丸区長

## 県内最高齢 長寿のお祝い

9月20日の敬老の日を前に9月7日、市内の最高齢者と夫婦を多次市長が訪問し、長寿をお祝いして記念品などを贈りました。

山東町一品の特別養護老人ホーム「緑風の郷」に入所している芦田テルエさんは明治32年生まれ、111歳(訪問時は110歳)で兵庫県では最高齢。多次市長からのお祝いの言葉に笑顔で答えていました。芦田さんは「元気は山ほど、力は水ほど」と、自作の歌を披露され、元気な姿を見せていました。



多次市長から記念品を受け取る芦田テルエさん(左)と芦田瑳千子さん(中央)

可を得て清国に輸出されますが、この取引を一手に引き受けたのが、足立仁十郎でした。

このことから第9代藩主松平容保は、仁十郎を若年寄(藩政に参画することのできる役職格に任じ、大禄を与えた)のです。また一方では仁十郎の会津藩に対する貢献も大きく、特に京都守護職時代の財政援助は3万両(一説によると、現在の価値で約18億円)にも達するほどでした。さらに慶応3年(1867)には足立泉の名前でドイツ人カールレーマンにゲベル銃4千3百挺やその付属品、弾丸製造用機械などを発注、会津藩の軍事力拡充にも一翼を担っていました。

しかし慶応3年(1867)の大政奉還の後、慶応4年(1868)、会津藩は薩長による新政府の誕生に抵抗(会津戦争)しましたが、それもむなしく敗北すると会津松平氏から

領地を没収。仁十郎の築いた財産も明治政府に没収されるに及び、会津を離れることになりました。そして明治14年(1881年)に81歳の天寿を全うし、亡くなりました(故郷で亡くなったと伝えられています)。

足立仁十郎の生家は、その死後、禅宗の道場「揚岐庵」となり、名僧越溪禅師をむかえ一時隆盛したものの、明治32年(1899)に与布土小学校の増築材として利用するために取り壊されて跡形もなくなり、今その場所は畑となっています。また、市内(個人蔵)に仁十郎が研究をして成しとげた朝鮮人参(黒川人参)製造の様子を描いた一枚の絵図と葵の御紋に「会津」と記された荷物札が仁十郎の遺品として、与布土の玉林寺に残されています(非公開)。

※大禄：たくさんの手当て



葵の御紋が記された荷物札